

第6回千代田区まちづくりプラットフォームのあり方検討会 議事要旨

日時	令和6年3月27日（水）16時～18時
会場	千代田区役所8階 第3・第4委員会室
出席	13名（4名欠席）
議題	千代田区まちづくりプラットフォームのあり方について （1） 第5回検討会での意見対応について （2） 実証実験について （3） 千代田区まちづくりプラットフォームのあり方について

議事要旨

- 開会

資料説明（事務局より）

（1） 第5回検討会での意見対応について

- 資料1に基づき、第5回検討会での委員指摘を受けての対応等が説明された。
- 資料2に基づき、第5回検討会で実施したグループディスカッションの内容について説明された。

意見概要

（1） 第5回検討会での意見対応について

質疑応答は特になし

資料説明（事務局より）

（2） 実証実験について

- 資料3に基づき、神保町における実証実験の結果が報告された。

意見概要

（2） 実証実験について

- 居住地構成で神保町に居住したことがない人が71%だが、具体的にどこに住んでいるかは尋ねているか追記してほしい。神保町に居住していない人から、神保町の良いところなどの意見が出たのは良いことである。
- 今後アンケートをとる際には、通学先、通勤先、業務や趣味での活動など神保町との関わり方を聞いた方がよい。
- 神保町で働いている方が多かったことについて、事務局としてはどう評価しているのか。また、アンケートの回答率はどの程度かも示してほしい。
- 回答率等の基礎的データは、付け加えてほしい。

資料説明（事務局より）

（3） 千代田区まちづくりプラットフォームのあり方について

- 資料4に基づき、まちづくりの合意形成に向けた千代田区まちづくりプラットフォームのあり方素案（案）の説明がされた。

意見概要

(3) 千代田区まちづくりプラットフォームのあり方について

- この2年間の議論が、まちづくりプラットフォームのあり方素案に込められて、まとめられてきたと思うと、大変貴重なものである。今後のまとめ方の注意点として、構成、内容に大きな問題があるわけではないが、それぞれの内容において、誰が・誰に言っているのかが分かりにくい点があるため再考いただけると良い。
- 全般的に、誰が実現するのかといった主語が書いていないことが多い。実際は様々な主体が取り組んでいくことになるが、それは責任回避になる可能性もあるため留意が必要である。特に、資料4のP13、15、28については、主語が明記されていない点が気になる。区民が主語なら区民に義務を課すことになり、区が主語であれば、ここで要請されている内容を公表して議会でも説明する必要がある。そのため、誰が進めるのかを明確にする必要がある。主体が誰になるかが決まらないと記載できない部分もあるかと思うので、決まった段階で、誰が進めるのか検討してもらいたい。
- 今後は、パブコメ等で意見をもらうことになると思うので、内容の精査はパブコメを踏まえて実施してもらいたい。
- パブコメのほか、庁内においても議論を重ねて、内容を精査していく。
- 資料4のP24、プラットフォームの支援内容について、神保町の実証実験を踏まえ、支援機能の中に計画言語のようなもの、地域のコミュニティにおいて共有しておくべきことはどのようなものであるかを言葉として蓄積していくことをプラットフォームで担っていくことができないかを検討してほしい。簡単に言うとパターン・ランゲージのようなものである。これがないと、一つの開発案件で合意形成ができたとしても、その周辺地域ではその後何もしないのか、となってしまう。例えば、靖国通り北側の地域は、「古書店街」という計画言語が有効ではなく、現状では地区計画も適用されていない市街地である。こうした地域で、共有される計画言語は何なのか、というところまでいかないと意味がないのではないか。もちろん案件を検討する中で計画言語が見出されることもあり得る。次のプロジェクトが起こったときに、その言葉を蓄積して、つないで大切にするということをきちんとシステムとして残せるようにするべきではないか。
- ご指摘の内容としては、概要版では、まちづくりが一直線に進むイメージになっているが、螺旋状に進むようになるのかもしれない。そのプロセスの中で共有化されたものが言語化されるということかと思う。
- 資料4のP25について、まちづくりの協働と記載がある。共助ではなく、協力の“協”を使っており、千代田区の防災分野においても使っているようであるが、どこかでその意味を書いておかないと、パブコメの際に意見が出る可能性がある。
- ご指摘の通り、千代田区では協働という単語を使っているため、用語整理で補足する。
- 資料4のP11のまちづくりにおける合意形成と意思決定にて、「なお、」からはじまる合意形成が何を指しているのか上手く理解できないため、補足説明を入れておいてほしい。
- 千代田区におけるまちづくりの合意形成を記載している。
- 意味が掴みにくいいため、補足の説明を加えたほうが良い。
- 今後のスケジュールはどうなっているか。

- 次年度、あり方素案は、パブリックコメントの実施に向けて、区内部で検討を進めるとともに、まちづくりプラットフォームの具体化に向けた組織体制等についても検討する予定である。また、それと並行して、まちづくりに関する情報発信サイトの構築に向けた検討も実施する予定である。

その他（検討会最終回にあたっての各委員からのコメント）

- 検討会としては、最後となるため、各委員から一言ずついただきたい。先に欠席の委員からコメントをもらっているため、事務局から紹介いただく。
- 欠席の委員2名から、コメントをいただいているため紹介する。まず、今回のまちづくりプラットフォームの検討は区内で起こっている諸問題が発端であると同っている。そのため、簡単に効果に結びつけられる内容ではなく、これまでの検討会で得た成果も仮説にすぎない。今回の成果を踏まえて、実証実験を繰り返し実施して、深化させていくことが必要である。引き続き、多くの人々が納得するまちづくりのプロセスを探っていくことを期待している。続いてもう1名からは、まちづくりは人との関わりが大事であり、プラットフォームではその役割を担うことが重要であると考えている。これからまちづくりプラットフォームが活用されることでより良いまちになることを期待している。
- 私としては熱心な議論をしていただいたので、それを生け捕りにして、ドキュメントにしたいと考えていた。ここに書き切れなかったものもあるので、それをどう伝えていくか課題である。
- 教育委員会の仕事を千代田区でやらせて頂いた縁で検討会に入れていただいた。学校教育を通じてコミュニティづくりと、まちづくりにも同じ課題があると認識した。ここまでつくったものを使いながら見直しをしていくことに関わりを持てたことをありがたいと思う。
- 千代田区の住民として、自分の住んでいるところには、まちづくり協議会がある。同時ではないが3つの再開発が同時並行的に動いている。まちづくりプラットフォームがあれば、この3つの再開発がバラバラでなく同じコンセプトで動いていくことができると思う。また、まちづくり協議会に参加している人には敬意を表しているが、なかなか結論がでない。まちづくりプラットフォームから、はやく結論を出すようにアドバイスがもらえれば、良い方向に進展すると思う。検討会は大変勉強になった。
- 千代田区でも様々に状況が違うと思った。マンションの住民はもちろんだが、事業所も参加してもらわないとまちづくりは続かない。また、まちづくりプラットフォームを通して、町会の良いところを発信できると良い。検討会は大変勉強になった。
- これまではまちづくりを深く考えたことがなかった。検討会に参加して、地域でまちづくりを考えることが基本なのだと思った。障害者福祉をやっていく中で、まちづくりも意識をして進めないといけないことを勉強させてもらった。
- 協議会を通じて、千代田区の中でも反対意見があり、情緒的に意見を曲げない人もいるので、このような人がプラットフォームに入るとどうなるのかという視点で関心があった。様々な区民がいるため、素案に記載している区民というのが何を指しているのか、考えないといけないと感じた。また、素案には難しい表現があるので、住民に理解できる表現となると良いと思った。
- 非常に勉強させてもらった。URではまちづくりを本業としており、現在も様々な形でまちづくりに関与している。本会の成果がまとめられて冊子となり、区民に公表されると思うが、この間の議論の過程を見てきた一人として、うまくプラットフォーム使いこなして千代田区におけるまちづくりに貢献できればと思う。

- あまり積み上げる発言ができなくて申し訳なかった。千代田区は、国家施策としての「都市再生」を象徴する地域で、これだけ同時期に多発する再開発事業を抱える自治体は全国でも稀である。一方で、基礎自治体の千代田区としてローカルな公共性をどう考えるかという課題もある。思考実験として極論ではあるが全区域を「国家戦略特区」に指定して都市計画フリーにしたらどうなるか。千代田区が担うべきローカルな公共性は、地域コミュニティに共有されるべき計画言語を見出し、蓄積していくことではないか。自分自身も計画言語を見出そうと探っているつもりであるが、本会議に参加して、そのようなことを再確認させていただいた。
- 生活者の立場で参加させてもらった。色んな人が関わったことを理解できた。また、純粋に、この会に来るのが楽しみだった。1年半かけてきたので、誰も読まなくなるのではなく、みんなのバイブルになるようにアップデートできると良い。内容を四コマ漫画のようにして、より親しみやすくできると良いと思う。
- 合意形成を図るための検討をする会議で招集されたが、当方が役に立てるのか、疑問を持っていた。検討会では、合意形成をいかに図るか、まちづくりをどう進めていくかの2つの軸で議論が展開された。2つが、個別に議論がされることも同時に議論されることもあり、正直に言って、内容は上手く理解できなかった。一方で、資料4のP25を見ると、記載内容は合意形成で埋められており、主眼は合意形成であったことが確認できた。通常の検討会では、総合計画などの計画の中身の検討について議論することが多い。一方で、この会議では、計画ではなく、どう進めていくかに重きを置いた議論がされており、これまでに経験のしたことのない会議体であった。資料4のP6に記載されている千代田区ウォーカブルまちづくりデザインを進めるために合意形成をどうするかということがもう少し早く明示できていれば分かりやすかったと感じる。各所で起きている問題の性質は全て異なるため、全てを入れることができる合意形成の袋を作ることは難しいのではないかと考えている。しかし、実際のまちづくりにおいては、一つずつ合意形成を積み重ねていくため、様々な事例ができていく。事例ができていくこと自体が良いことであり、事例の蓄積がされて、今後のまちづくりに応用できていくと思う。
- 今後まちづくりに重要な新たな仕組みについて手探りの中で丁寧に検討されてきた事務局のご対応についてとても評価している。個人的にも合意形成の研究の視野も広げることができた検討会であった。合意形成は、重要であり、必要でもあるので、千代田区が真正面から議論していることは評価できる。ここで積み重ねられたものが、あり方素案になると思う。この試みは、他の自治体では多くなく、かなり先駆的な取組だと思う。参加させてもらったことに感謝している。ただし、それを区民に伝えていくことが重要である。また、伝えるだけでなく、深く議論することで初めてプラットフォームや合意形成は何かと言うことが見えてくる。この度の検討会が終わりではなく、はじまりと考えて、プラットフォーム、合意形成、まちづくりのあり方を深めてもらいたい。
- 1年半に渡り、ご協力いただき感謝している。内容の精査がまだ必要であり、パブコメを実施するまでに仕上げることは多くの作業が伴うが、公表できるよう区において検討を重ねていきたい。業務としては、プロジェクト関係を進めているが、プロジェクトがない中でまちづくりとは何かという問いはかなり深いものであり、コミュニティの話は必ず出てくるなど、担当の部だけで対応するのは難しいと感じた。まちづくりを進めていくためには、区全体で考えていく必要があると認識した。
- まちづくりに対する諸問題の対応による職員の疲弊をきっかけとして、検討を始めた。千代田区の人口が3万人になってから市街地の更新などを進め、評価指標のうち、13項目の定点観測をしてい

るが、1つを除いて全て改善している。そのため、長期的に見てまちは悪くなってはいないと認識している。しかしながら、昨今、極端な賛成と極端な反対の中で、その間にいる多くの人の不利益を被っている実態がある。その中でバランスをいかに保つかということにおいて、職員が疲弊している。コミュニケーション・コミュニティをどうデザインしていくかを、デジタルの力、デザインの力を借りながら、今後まちづくりがうまく進むように成果を活かしていきたい。また、まちづくりとコミュニティの連携についても取り組んでいきたい。

- 各委員にお礼を申し上げたい。毎回、熱心に議論してもらい感謝している。自分にとっても大きな財産になった。千代田区から依頼を受けた際に、千代田区の中で深刻な課題を抱えた地区があることは知っていた。個別の課題がある地区を念頭に置きながらも、一般的な議論をすることも重要であると考えていたため、座長を引き受けた。引き受けた際は、数回で終了するかと考えていたが、想定の倍以上の回数を要するほど議論が白熱した。今後はプラットフォームを念頭に置いた議論ができることは大きいと思う。本会を通じて、プラットフォームという概念を打ち出したので、これを拠り所にして進めて欲しい。より良いまちづくりにつなげるための努力をしていただき、今後に期待したい。

閉会
